

車いすネイルリスト 広がる未来



28日、香港に到着するために

いかを確認したりした。理工大をめくっては大学側が27日、キャンパスを捜索したが、立てこもりを続

一方、米国で「香港人権・民主主義法」が成立した

道官は28日、「デモ参加者への間違ったメッセージとならかねず、香港の情勢を

「ない」とする談話を公表し、米政府を批判した。
(香港＝高田正幸)

美容技術の習得により、車いすを使用する障がい者への就労支援をと、大阪の一般社団法人「パラリンビューティ」が、東京都内で専門のネイルリスト養成スクール開設の準備を進めている。

美容師や理容師など美容関連の仕事は立ち仕事が多いが、ネイルリストの仕事は座ったままでもでき、技術を磨くことで職業とすることが可能だ。来年の東京パラリンピックを「追い風」に、世界中から集うパラリンピアンへの施術も目標にしている。

今年から大会に

今年16日、愛知県常滑市で開かれた「第39回全国障害者技能競技大会」(通称アピリンピック)に宮下紅海さん(19)と藤本侑奈さん(24)の2人が同法人から推薦され出場した。ネイル競技は今年から

座ったまま作業可能 技術磨ける パラリンピアンへの施術も目標

全国障害者技能競技大会のネイル競技を終え、モデルの女性(左)と話す宮下紅海さん



ネイル競技「ベーシックマニキュア」に挑む藤本侑奈さん(左)と宮下紅海さん(右)は16日、愛知県常滑市、仙波理撮影

の新設だ。東京代表の宮下さんは二分脊椎内反足両股関節脱臼で、兵庫代表の藤本さんは脳性まひのため、車いすを使っている。

競技は極細の筆やピンセットを駆使する緊張感の中、各地から選抜された6人の出場者で腕を競った。宮下さんは「疲れたけれどやり尽くした感じ。とても楽しい時間でした」。藤本さんは「仕上がりは今まで一番。最後までやりきったことが自信になりました」と話した。2人は入賞には届かなかったが、手応え

をつかんでいた。法人代表理事の大倉伸三さん(54)は、大阪市内で美容室を経営し、4人の障がい者を雇用している。ネイルリストに注目し、2012年から特別支援学校での「出張授業」や体験会などで実際に車いすネイルリストの技術を披露し、支援と啓発活動が続けてきた。美容師や理容師は国家資格が必要で、専門学校などで学ぶ必要がある。また、特別支

援学校高等部を卒業の場合、大学の受験資格は得られるが、一般に専門学校入学に必要な高卒資格は取れない。さらに理容台に手が届かないなどの不便があり、事実上、就労は困難だ。

働く機会増やす

一方、ネイルリストには特別な資格はなく、美容室ほどの設備や広さも必要としないため、技術さえあれば自宅でサロンの開業もでき、働き方も選べる。女性には美容に興味がある人も多く、就労の機会を増やせるのではないかと大倉さんは考えている。

都の認可が下り次第、養成スクールを開校する予定だ。名前は「クロスネイル」。多様な個性や環境を認め合う「重なり」をイメージした。大倉さんは「パラリンピックの盛り上がりが予想される東京で始める意味は大きい。もし選手たちに施術ができれば、多くの人たちに考えてもらうきっかけになる」と期待している。
(仙波理)